第14回 卒業演奏会

神戸大学教育学部音楽科

賛助出演　神戸大学交響楽団
〃　グリークラブ
〃　女声合唱団

日時：1964年3月11日（水）P.M. 6:30
場所：国際会館大ホール

ごあいさつ

神戸大学教育学部長　太田頼常

わが国の音楽文化の発展は、文字通り「日進月歩」といえると思います。特に最近は、音楽及び音楽教育ともに急速度に飛躍し、ある面に於ては世界的水準を上廻わるといった状況もみられ、誠に喜ばしく意を強くする次第であります。

本学の音楽科もまた着々とその成果を上げているようですが、学部の性質上、ともすれば象牙の塔にとじこもり独りよがりになりやすいきらいがあります。

よって数年前から卒業演奏は、街に進出し、皆様の御指導、御支援を賜わり、更に飛躍したいものと、念願いたしております。幸い本夕も、この会場で演奏会を催すことになったのであります。

申すまでもなく、卒業生とはいうものの、まだまだ十分とはいいがたく、さだめしお聴き苦しいことと存じますが、本学ならびに巣立ちゆく者の将来のために、御遠慮のない御批判賜わりますようお願いいたしたく御挨拶に代える次第であります。

ごあいさつ

神戸大学教育学部音楽科主任　伊熊良穂

教育学部音楽科のあり方は、いわゆる音楽大学のそれとは多少趣きを異にしています。即ち、音楽芸術の探究と教育に関する知識技能の修練との両面をもっている事です。

一見「二兎を追う……」とみられがちですが、その両面を完遂する為には二倍も三倍もの努力を必要としまや。その為には施設や教官の人員など十分とは申されませんが絶えざる努力を続けて今日に至っているのであります。

演奏者は音楽科主専攻と副専攻の者でそれぞれ四年間に研修した一部を最良の場で、最善の表現をすべく張切っているはずです。とはいえ芸術の世界はきびしく、あくまで「表現されたそのもの」に価値があり、それ以外の同情や条件の考慮などは禁物です。その意味に於て御来場の皆様からきびしい御批判を賜わり、卒業生将来の発展に資したく一言お願いならびに御挨拶申し上げる次第であります。

ごあいさつ

音楽科一同

みなさん、今夕は御来場下さいまして誠にありがとうございます。卒業生在校生一同非常に喜んでおります。今回またこのような立派な会場で四年間の研究の成果を発表することができますのも、みなさま方の暖かい御理解、御協力の賜物と思っております。なお一層皆様の御指導を仰ぎ更に立派な音楽会にし御期待に添うように頑張りたいと思っております。

未熟な者ばかりですが、それは音楽に対する情熱で補い頑張るつもりです。きようのステージを踏み台にして、なお一層の精進を行なう私達のために、今後とも暖かい御支援と御批判をうけたまわりたく思っております。よろしくお願い致します。

楽屋 27 [2号]

第　1　部

1. ピ　ア　ノ　　小畑慶子

ベートーヴェンの主題による変奏曲　サン・サーンス　　高尾治子

2. ヴァイオリン独奏　　真期英俊

ヴァイオリン協奏曲　ト短調　ブルッフ　伴奏　武谷安子先生

3. ピアノ独奏　　田頭和子

バルカローレ　フォーレ

プレリュード　プロコフィエフ

4. バリトン独唱　　坂下功一

歌劇〃道化師〃より　レオンカバルロ　伴奏　中嶋和子

プロローグ

5. ピ　ア　ノ　　光上真理子

ピアノ協奏曲　変ロ長調　モーツアルト　　折井富美子先生

6. 混声合唱　　指揮　石田純一先生

〃四　季〃　より　ハイドン　伴奏　武谷安子先生

エレクトーン　鈴木　寛

第　2　部

1. 管　絃　楽			神戸大学交響楽団
組曲二番 〃アルルの女〃	ビゼー	指揮	松永　明
			大軒　護
2. メゾ・ソプラノ独唱			湯口直美
歌劇 〃フィガロの結婚〃 より 恋とはどんなものかしら	モーツアルト	伴奏	神戸大学交響楽団
3. ソプラノ独唱			小沢喜美子
歌劇〃カバレリア・ルスチカーナ〃より ママも知るとおり	マスカーニ	伴奏	神戸大学交響楽団
4. ピ　ア　ノ			徳丸公子
ピアノ協奏曲　第三番	ベートーヴェン		神戸大学交響楽団